

# 富士の民話 あれこれ

死骸<sup>がい</sup>が消える

## 永明寺の山門

原田の永明寺<sup>ようめいじ</sup>には、山門と呼ばれる、白壁の塀で囲まれた立派な門があります。  
今回はこの山門にまつわるお話を紹介します。



◀ 永明寺の山門

昔、お葬式の行列が正面から入り、この山門をくぐろうとしたとき、急にお棺が軽くなりました。担いでいた人々がお棺をおろしてふたをあけてみると、どういふことか、死骸が見当たりません。

驚いた人々は、死骸がなければお葬式ができないといふことで、家まで引き返そうとした。ところが、門前の道まで来ると、またお棺が重くなりました。あけてみると、死骸がもとに戻っています。

和尚さんも、不思議なことがあるものだと思しながら、今度はお棺のそばでお経を読みながら門を入りました。すると、今度は死骸が消えませんでした。

このようなことが、その後も何度か続きましたが、どうしてもわけなのか、和尚さんにもわかりませんでした。それからというもの、お葬式の行列は山門を通らなくなりました。



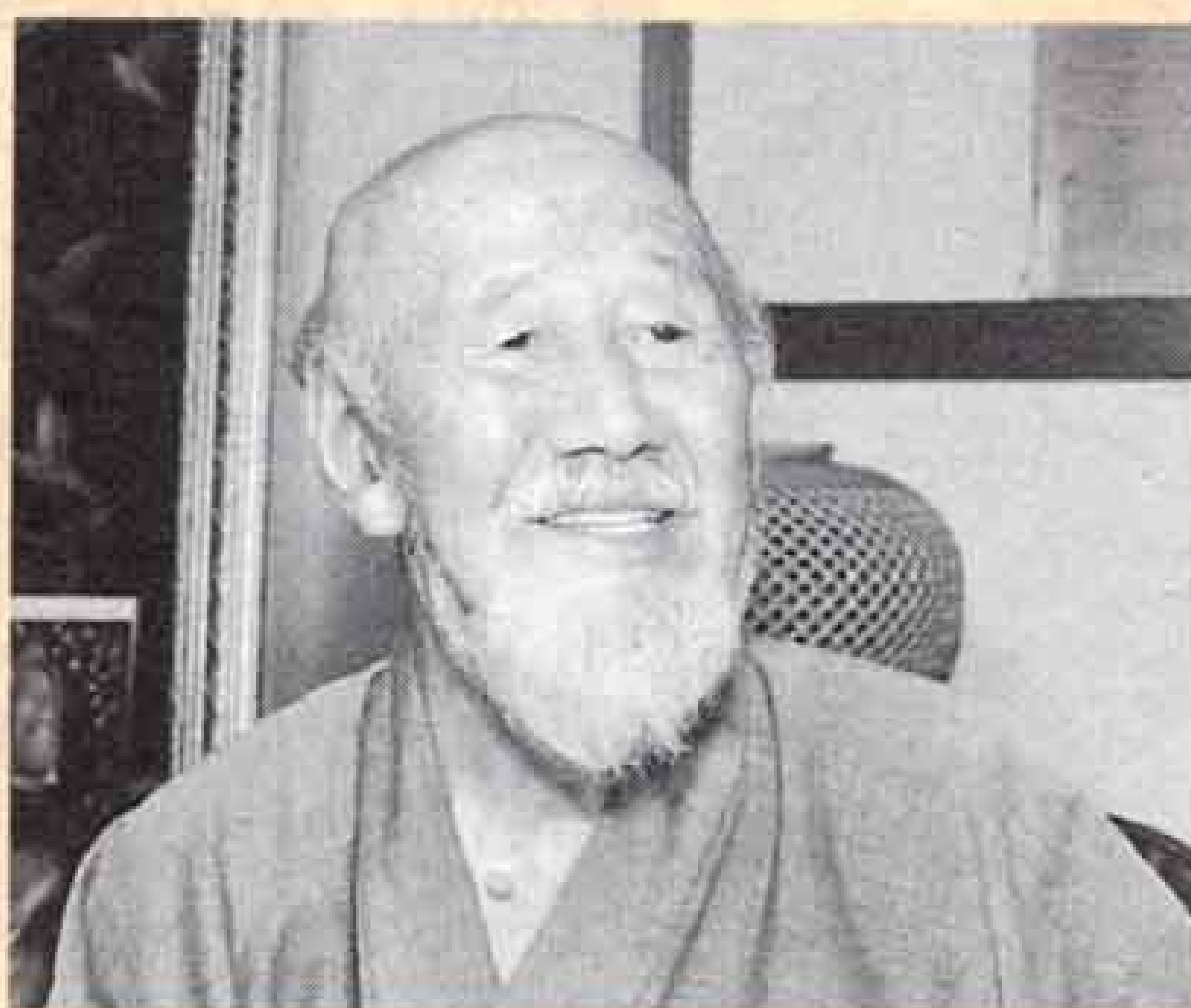
永明寺は、室町時代に建てられました。このあたりでは、曹洞宗としては一番古いお寺だと思

います。このお寺を中心に、市内外に曹洞宗のお寺が広がったようです。

永明寺には、大門、山門、裏門の三つの門がありました。現在の滝川橋のあたりに大門があり、そばには杉の大木がありました。山門も杉垣でできていて、階段も多かったようです。

山門は大名門とも呼ばれ、修行僧や一般の参拝者などが通る門でした。葬列はふつう裏門を通るものでしたから、山門を通らせないようにと、このような死骸が消えるというお話ができたのではないのでしょうか。

昔は、お寺を中心に人々の生活がありました。栄えた時代もあれば、参拝者が減って寂れてしまった時代もあります。最近、特に工場がふえてからは、このお寺の周りもずいぶん変わりましたね。



永明寺前住職  
加藤 義孝 さん

### こちら編集室

夏本番となり、広島平和記念日、長崎原爆の日、終戦記念日と戦争に関する行事が続きます。

2年前、富士市の平和事業への取り組みの発表をするため、広島を訪れた。強烈な暑さの中での平和記念式典よりも、心に残ったのは前夜の平和公園の光景。夕闇に

包まれるころ、多くの人々が記念慰霊碑や原爆の子の像に折り鶴や花を捧げたり、太田川のあたりでろうそくの灯のもとミニコンサートに参加したりと、それぞれに原爆で亡くなった犠牲者に対する思いをはせていた。子供が中学生になったら一緒にもう一度訪れたい。

人口 239,563人 (前月比+56)  
男 119,285人 (+22)  
女 120,278人 (+34)  
世帯 80,276世帯 (+130) 7月1日現在

編集・発行 富士市総務部広報広聴課  
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100

☎51-0123 ㊟51-1456

